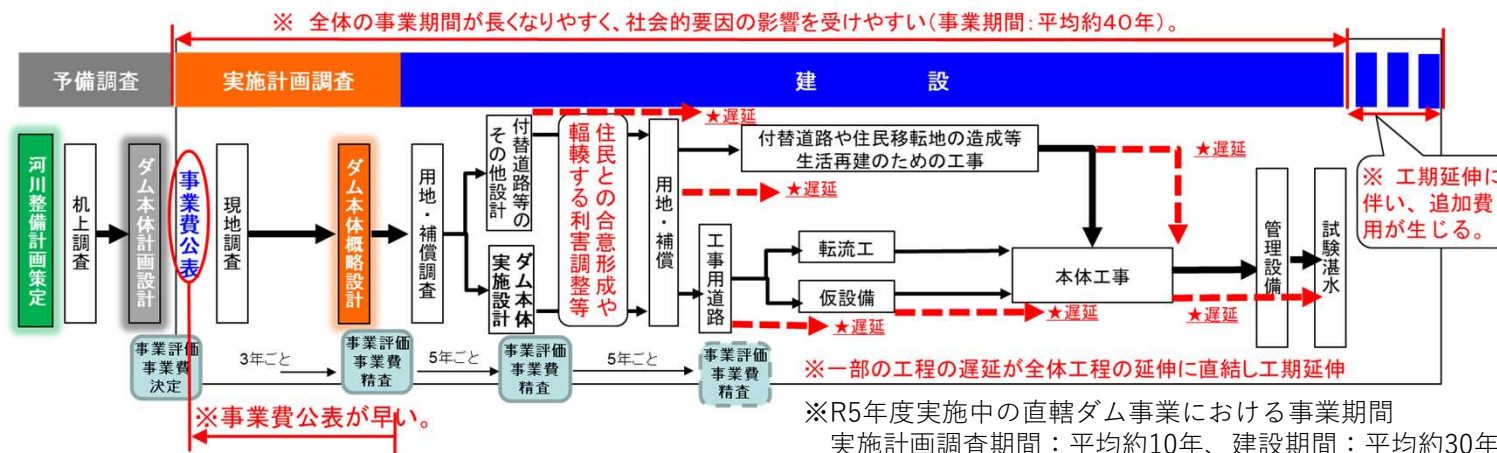


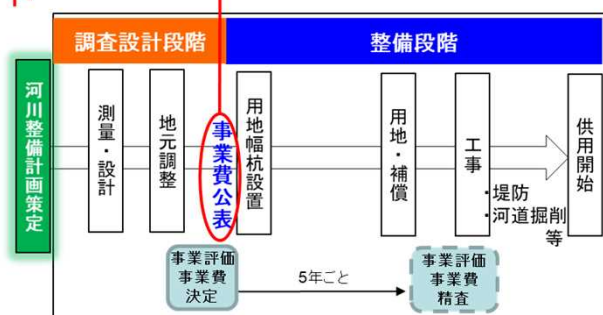
【報告】治水事業におけるリスク対策費

リスク対策費計上の背景

- ダム事業は、他事業と異なる以下の特徴から、実施計画調査着手から建設完了までの事業期間が長くなりやすく、社会的要因に伴う事業費の変動が生じやすい。
 - 他事業は整備段階着手時点で事業費を公表する一方、ダム事業は、その前の実施計画調査着手時点で事業費を公表
 - 建設段階では、水没関係者の生活再建のための住民との合意形成・輻輳する利害調整等や多種多様な工事工程が関連性を持って積み重なり、長期の工期となる
- 全体の事業期間が長い上に、ダム本体と付替道路等の多種多様な工事の工程が相互に複雑に関連し、一部の工程の遅延が全体工程の延伸に直結し工期延伸となるリスクが高いという特徴がある。これに伴い、追加費用が生じる。
- これらのダム事業の特徴を踏まえ、事業費増のリスクへの対応のため、新たに「リスク対策費」を計上することとした。



他事業の場合
※河川 (個別採択事業)



※河川事業においても、事業着手前に想定できなかった要因に対応するための費用を計上できることとしている。

事業評価上の取り扱い

- 間接経費の一部として一括して整備期間の最終年度に積み上げる。
- 総事業費の内数として、試行的に残事業費の10%を「リスク対策費」として見込む。
- 「リスク対策費」を計上したとしても全ての将来の変動要因には対応できず、残余リスクは発生するため、「リスク対策費」を含む総事業費の外で±10%事業費の感度分析を実施する。(参考:公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編))。

BD様式-6(1)

事業費の内訳書

ダム事業

事業名 事業 (全体事業費)

※ ()欄に残事業費、全体事業費の別を記入すること。

評価年度 再評価

※ 評価の種類(新規事業採択時評価、再評価、完了後の事後評価)の別を記入すること。

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
工事費	ダム費	式		1	0		
		式		1	0		
		配流工	式				
		掘削	千m ³				
		基礎処理	m				
		堤体工	千m ³				
		閉塞工	式				
		仮設備	式				
		放流設備	式				
		環境整備	式				
		.					
		.					
		その他	式				
		管理設備費	式		1	0	
	通信広報設備		式				
	放流制御設備		式				
	電力設備		式				
	その他		式				
	仮設備費	式		1	0		
		工事用道路	式				
		その他	式				
	工事用動力費	式		1			
		式		1			
	用地費及補償費	式		1	0		
		用地費及補償費	式				
		補償工事費	式		1	0	
付替道路		m					
その他		式					
間接経費	式		1		リスク対策費を含む		
工事諸費	式		1				
事業費 計	式		1	0			
維持管理費	式		1				

● 間接経費の一部として、「リスク対策費」を計上

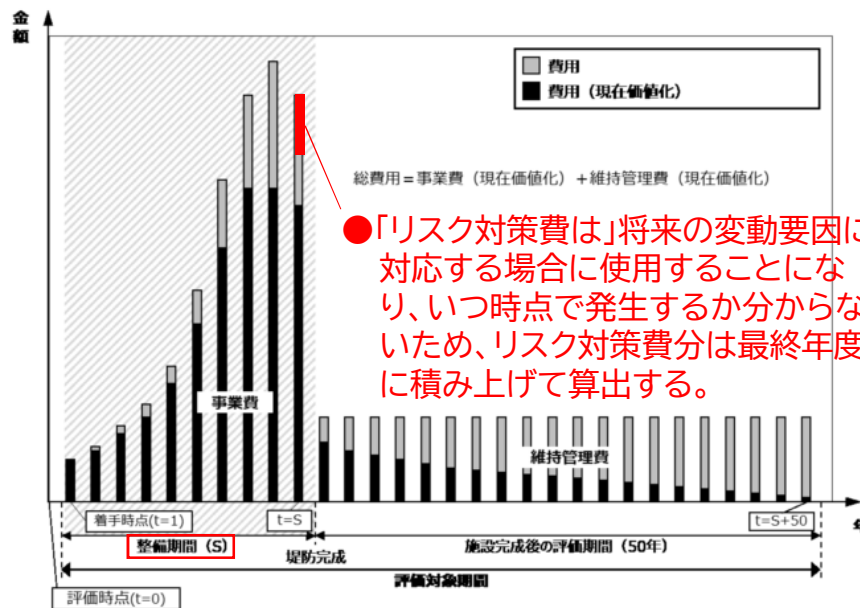


図-5.2 ダムの費用